

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年1月31日(日)第五主日新年礼拝  
週報「通算第542号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌40「ガリラヤの風香る丘で」p. 57

【交読文】 No.3 詩篇第16篇 p. 880

【賛美Ⅱ】 新聖歌266「罪・咎を赦され」 p. 418

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美19「共に住み、共に生き」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章19節～23節

【礼拝説教】 《心の平安をはばむもの》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書20章19節～23節】

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

20:21 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされたように、私もあなたがたを遣わします。」

20:22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」

●ポイント1. 心の平安をはばむもの①「だれかの罪を赦すなら」とは？

※マタイの福音書18章21節～24節「一万タラントの負債」(新約p.37上段)

18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「私は七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。」

18:23 ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。

18:24 清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。

●ポイント2. 心の平安をはばむもの②「思い煩い」からの解放とは？

※ピリピ人への手紙4章6節～7節「使徒パウロの勧め」(新約p.399下段)

4:6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

4:7 そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

※第 I ペテロの手紙5章7節「使徒ペテロの勧めから」(新約p.471下段)

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配して下さるからです。

●ポイント3. 心の平安をはばむもの③「試練」にあったとしたら？

※第 I コリント10章13節「耐えられない試練はなく」(新約p.340下段)

10:13 あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練と共に脱出の道も備えていて下さいます。

※ローマ人への手紙8章28節「すべてのことが益に」(新約p.310下段)

8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画に従って召された人たちのためには、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。

## ◎先週のメッセージの概要【平和をつくる者】

《主イエスは「平安があなたがたにあるように」と言われました。これは、私たちの心の中が平安であるようにとのことです。平安とは心が穏やかなことを指します。また主イエスは「平和をつくる者は幸いです」とも言われました。平和とは、戦争や紛争がなく、世の中が穏やかなことを指し、もう一つの意味は、心配事やもめ事がなく、おだやかなことを指しています。

この世界は、争い事や、もめ事が満ちています。その中において、平和を作り出そうとするならば、その人自身の心が平和でなければなりません。つまり心の中に異なった思いと思いが争っていたとしたら、その人は周りに平和を作り出すことは出来ないのです。イザヤ書は、メシアなるお方が「平和の君」であることを預言しています。この世界に真の平和は必ず訪れます。しかしそれが実現するのは、主イエスの再臨後のことです。

それに先立ち、私たちは私たちの周りに、神の子どもとして、平和を作り出す使命が与えられています。その為には、どうしたら良いのでしょうか。それは私たちが何を土台として、この人生を生きて行くかにかかっているのです。主イエスは弟子たちに、たとえを用いて教えられました。

『「私のこれらの言葉を聞いて、それを行なう者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。』このたとえは、主イエス・キリストを土台とすることを教えています。私たちは、主のみ言葉の上に家を建てるのです。

かつて、イスラエルの民は荒野を40年さまよいました。その時、神様は彼らに「マナ」と言う御使いの食べ物を与え、40年間養われたのです。ここから何を学ぶべきかと言いますと、神様は、私たちが必要な物をすべてご存じで、その日その日に与えて下さると言うことです。また、神様は私たちのすべてを支配する主権者であると言うことです。そのことを心から信じて歩いて行くところに、生きた本物の信仰があるのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は2021年2月7日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、2月3日(水)各家庭において行ないます。